

# 和歌祭

ソロビョフ・ドミトリ

日本語・日本文化研修留学生 ロシア

日本の各都市には独自の祭り、つまりフェスティバルがあります。一年のうちの特定の日に、人々は寺院や神社に集まって、お神輿という神聖な神の乗り物を運んだり、伝統的な衣装でパレードをしたり、その他いろんな祭りを開催します。

和歌山では毎年「和歌祭」という祭りが開催されます。この祭りでは、ボランティアが街中で神輿を運びます。同時に、他の参加者はグループ分けされ、日本の伝統衣装を着て、歌を歌ったり、踊ったりします。和歌祭は、和歌山城の徳川頼宣が、亡くなった父親を記念して設立した祭りです。

私は日本語と日本文化研修留学生なので、このイベントにも参加することにしました。私は、着物を着て、彼らの顔を描き、そしてマスクをかけている面被グループに興味を持ちました。そして、特別な準備やリハーサルをする必要がないということだったので、喜んで面被グループへの参加を申し込みました。

当日、私たちは他の学生たちと一緒に会場に到着し、すぐにコスチュームに着替え始めました。着替えや化粧をした後、全員が紀州東照宮に行きました。そこで私達は祭りに参加するボランティアの他のグループと会いました。神社の前に、歴史上の、武士、芸者、相撲人、その他のキャラクターにコスプレした人々が大勢いました。それから小さな儀式が行われ、祭りの行進が始まりました。私たちのグループは、見物に来た人々が私たちを見て写真を撮ることができるように、街の通りを歩きました。しかし、最も興味深かったのは、ただ歩くだけでなく、見ている子供たちのところに行って、彼らを大いに怖がらせなければならなかったことでした。私には特にこれが面白かったです。途中で、すべてのグループは、神道の神々を崇拝する儀式があった海岸で立ち止まりました。それから我々はまた行進ルートを進み続けました。子供たちを驚かしていた数時間、私は自分がある種の日本の悪霊になったように感じました。

百面相のボランティアたちは大声で叫んで子供を驚かさなければならなかったもので、終わりの方では、私は声が出ないほどになりました。しかしとても楽しかったので、時間はすぐに過ぎました。それから私たちは祭の事務所に戻ってメイクを落として、祭りは終わりました。

和歌祭に参加できたことを、私はとても嬉しく思います。私の国にはこのような祭りがなくて、残念です。このようなイベントは人々を互いに結びつけ、伝統を守るのに重要な役割を果たすと思います。

